

(別紙 6)

宮城県における認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る
評価報告

1 認定鳥獣捕獲等事業者等の現状や課題等

本県では複数の認定鳥獣捕獲等事業者が登録されているが、事業者の規模や実績の差が大きい。 指定管理鳥獣捕獲等事業に係る捕獲業務や認定鳥獣捕獲等事業者等の育成に係る業務については認定鳥獣捕獲等事業者への業務委託により実施しているが、その際、事業者の能力的・規模的な面からも受注者が特定の業者に偏りがちになる。
--

2 1 の課題等に対応するため、本事業で実施した取組内容

実施時期	令和 6 年 5 月～令和 6 年 8 月
場所	県内全域
目的	県内の認定鳥獣捕獲等事業者の確保・育成 (育成したい人物像) 指定管理鳥獣の生態に精通し、他の従事者の模範として意欲をもって活動できる者。
対象者・講師 (人数も記載)	対 象 者：県内の認定鳥獣捕獲等事業者等 (約 1 0 0 名) 講 師：県内外の認定鳥獣捕獲等事業者又は国等のアドバイザー 制度登録者 (約 2 名)
内容	認定鳥獣捕獲等事業者講習実施要領に基づく安全管理講習、知識技能講習、銃器によるニホンジカ・イノシシの捕獲技術研修
方法	座学及び野外実地
評価方法	認定鳥獣捕獲等事業者の従事者人数、捕獲等事業の CPUE。
事業費	1, 1 1 1 千円
備考	

注 1：項目に沿って、実施した研修会等の具体的内容を記入すること。なお、「目的」には育成したい人材像も記入し、「評価方法」には目的や育成したい人材像に対する事業内容の適切性の検証方法や

事業効果の測定方法等を記入すること。

注 2：事業終了後の評価結果では、各項目について、実施した結果を記入すること。

3 2 の取組に対する評価と今後の課題等（事業終了後の評価結果時のみ記入）

所定の研修を実施し、認定鳥獣捕獲等事業者の従事者人数は増加した。

捕獲等事業の CPUE について総合的にみると大幅な改善はなかったものの、一定水準の維持に貢献した。

当該指標は外部要因にも影響を受けることから、引き続き受講生を確保し、長期的な改善を目指したい。

注：1 の課題及び 2 の各記載内容等も踏まえ、取組が適切に実施されたか、目的に対して効果があったか等の評価を具体的に記入すること。

また、評価を通じ明らかになった取組の改善点や今後の認定事業者の育成の課題等についても記入すること。

4 その他

注：特記すべき事項があれば記入すること。